

領域・小問ごとの分析	対策の視点
<p>領域 A (生物とその環境)</p> <p>6. 花粉の働きを調べる方法</p> <p>(1) 正答率は75%でほぼ理解されている。</p> <p>(2) 正答率は82%でよく理解されている。</p> <p>7. 花粉と受粉</p> <p>(1) おしべに花粉ができること</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 正答率は59%であり、め花の(エ)という誤答が多い。 <p>(2) ヘチマの実のでき方</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 正答率は58%で(ア)という誤答が多い。 <p>8. 森林内外の様子の違い</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 正答率72%とほぼ理解されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 花粉がつかないと、種子ができないことを確実に理解させる方法を工夫する。 ○ め花とお花の区別など、花のつくりについてよく観察させ、それぞれの部分の働きについてもよく理解させることが必要である。 ○ め花とお花が明確に区別されておらず、混同しているので、観察の視点をはっきり押さえて指導する必要がある。 ○ 野外で実際に観察させ、森林の樹木の様子だけでなく、そこに生えている下草にも目を向け、植物どうしの関係をよく理解させる必要がある。
<p>領域 B (物質とエネルギー)</p> <p>9. 電磁石の極と電流の関係</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 正答率は75%とほぼ理解されている。 <p>10. 電磁石を強くする方法</p> <p>(1)…正答率73%とほぼ理解されている。</p> <p>(2)…正答率83%とよく理解されている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 条件を変え、実際に試してみることと、結果をよく整理し、そのきまりを的確にとらえさせる必要がある。 ○ 製作活動を取り入れ、実験をとおして理解を図る。
<p>領域 C (地球と宇宙)</p> <p>11. 地層は水の働きによってできること</p> <p>(1) 地層と水の働き</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 正答率は71%でよく理解されている。 <p>(2) 地層のでき方</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 正答率82%とよく理解されている。 <p>12. 土や砂の水中での沈み方</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 砂よりも粘土の方が速く沈降するという誤答が多く、正答率も51%と低く、理解が不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 川原で、視点を明確にした観察を行うとともに、モデル実験の方法を工夫し、運搬作用と粒子の大きさの関係を確実にとらえさせる。 ○ 太い透明ビニール管を用いて実験観察させ、にぎって見えるのは小さい粘土の粒で、これの沈む速さは最も遅いことをとらえさせる。